

### 3 競技力の向上

目標 国民体育大会入賞（都道府県対抗8位以内）

未来のアスリートの発掘・育成・強化

#### （1）選手の育成・強化、指導者の養成・確保

##### ① 現状と課題

本県では、平成22年、第65回国民体育大会（以下、「ゆめ半島千葉国体」という。）及び平成17年度全国高等学校総合体育大会（以下、「千葉きらめき総体」という。）において好成績を収めることを目的として、平成14年に「千葉県競技力向上推進本部」（以下、「推進本部」という。）を設立し、計画的な取り組みを展開しました。

この間、競技水準は大きく引き上げられ、「千葉きらめき総体」では、過去最高の入賞者を輩出するとともに、国民体育大会においても、第62回秋田国体8位、第63回大分国体6位、第64回新潟国体6位と着実に成果を上げ、37年ぶりに開催された「ゆめ半島千葉国体」では本県史上初の天皇杯・皇后杯獲得による完全優勝を達成、選手と地域が一体となって「日本一」を味わい、県民に大きな感動を与えました。

加えて、北京オリンピックには7名の本県高校出身者が出場するとともに、年代別の日本代表や競技別の世界選手権代表も数多く輩出するなど、国内外で活躍するトップアスリートの育成にも大きな成果を上げています。

本県で育った選手が日本、そして、世界の「ひのき舞台」で活躍することは、県民に感動や勇気、希望、誇りを与え「スポーツ立県ちば」の実現のために大きな役割を果たします。

第66回山口国体においても、男女総合7位・女子総合6位入賞を果たしており、これまでの取り組みの成果をしっかりと引き継ぎ、本県の競技力の恒常的な維持・発展を目指し、選手の育成、強化・指導者の養成、確保に取り組みます。



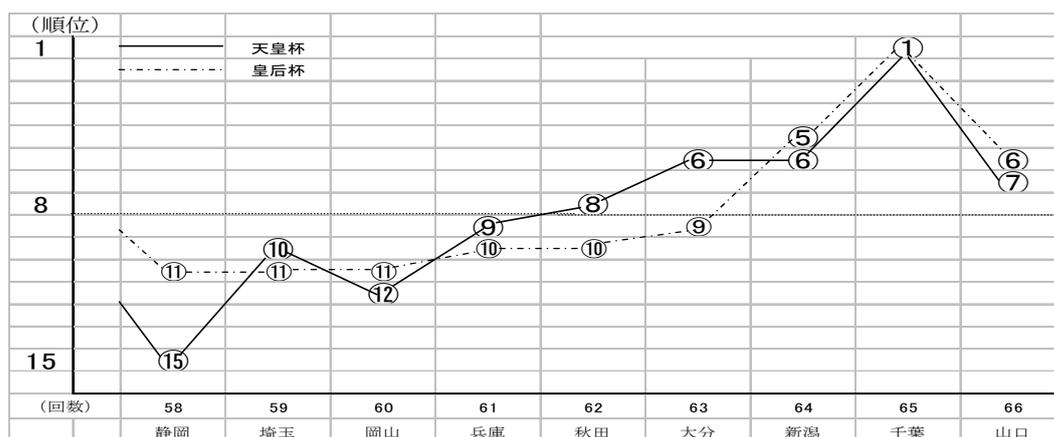
（ゆめ半島千葉国体・完全優勝）

## ② 取組の方向性

- ア 国民体育大会入賞に向けた国体選手強化の推進
- イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化のためのジュニア選手強化の推進
- ウ スポーツマンシップを育成する選手強化の推進
- エ 研修機会の確保等による指導者の資質向上
- オ 指導力のある学校運動部活動指導者の確保と適正配置

## ③ 具体的な取組

- ア 国民体育大会派遣
- イ 国民体育大会千葉県大会（国体予選）の開催
- ウ スポーツマンシップを育成する選手強化の推進  
指導者はスポーツマンシップの持つ教育的価値を正しく理解し、活動を通して選手への育成・定着を図ります。
- エ 国体選手強化・サポート事業  
国体出場選手の強化のため強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等を実施します。また、コーチを国体や強化活動に派遣します。各団体の指導者の養成・資質向上のため、県外視察や講習会参加等を支援します。
- オ ちばジュニア強化事業  
素質のある選手の早期発見と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を図るためスポーツ教室、地区別練習会、中央練習会、強化合宿等を実施します。  
「ゆめ半島千葉国体」開催地等を活用し、新たな強化拠点づくりを目指します。  
平成26年「南関東ブロック高校総体」のため強化活動を実施します。  
国体選手や指導者を学校等に派遣し、スポーツ教室、強化練習等を行います。  
関係団体主催のジュニア選手の育成・強化に関する競技会開催の支援を行います。  
優秀な選手や指導者を強化指定し、意欲の向上に努めます。  
なお、事業の推進に当たっては、児童生徒の心身の発育・発達段階や健康状態を考慮し、障害防止や安全等に注意するとともに、学習活動に支障のないよう十分配慮します。
- カ 指導者の適正配置・確保  
指導者の適材適所の配置について、関係機関、団体及び企業等に協力を求め、積極的に促進します。特に教員の配置については、長期的な視野に立って適切に行われるよう関係機関に要請します。また、運動部活動における外部指導者の導入を積極的に推進します。



(国体成績の推移)

## (2) 競技力向上のための環境整備

### ① 現状と課題

選手の育成・強化の現場では試行錯誤を繰り返し、選手が力を発揮できる環境を地道に整備しています。本県では、競技団体の要望や課題等を踏まえながら、「ゆめ半島千葉国体」に向け、競技用具等の整備、県を代表する企業チーム等への支援、強化拠点施設の確保、強化活動への参加条件の整備などに計画的に取り組みました。

「ゆめ半島千葉国体」終了後も、選手の育成・強化及び必要な競技用具等の計画的整備や、有力選手が所属する企業チームの支援とともに、関係機関の理解や協力を得ながら、練習拠点や参加条件の整備に努める必要があります。

#### ア 競技用具の整備

選手強化に必要な用具等を整備し、練習条件を整備することは競技力の向上に直接結びつきます。特に競技ルールの変更や、セーリング艇・カヌー艇など高額で特殊な競技用具については、財政的支援による計画的な整備が求められています。

#### イ 企業チーム等への支援

有力な選手・監督の所属先や、スポーツ活動を推進する企業・大学等と連携し、その活動を側面から支援するとともに、国民体育大会への理解を深め、協力体制を構築することは、一貫した選手強化を推進する上でも重要な課題です。

#### ウ 強化拠点施設の確保

強化練習を行う際には、高度な練習が可能な施設・設備が長期的に確保されていることに加え、選手が集まりやすい場所等、地理的な条件も必要です。それらを踏まえ、各学校の施設や公共スポーツ施設を優先的に利用できるような方策を推進します。一方で、県民のスポーツニーズの高まりにより、選手強化と愛好者による大会等とのバランスのとれた利用も求められています。

#### エ 参加条件の整備

強化選手、特にジュニア選手は、小学校高学年から高校生まで幅広い年代であり、学校、保護者の理解・協力なくしては順調な活動は望めません。そのため、児童生徒が強化活動へ参加する場合の理解促進が必要です。



(幕張総合高校クライミングウォール)

## ② 取組の方向性

- ア 競技用具等の計画的な整備の推進
- イ 企業・大学等との連携の促進、協力体制の構築
- ウ 強化拠点施設の確保と計画的利用の推進
- エ 児童生徒等の参加条件の整備

## ③ 具体的な取組

### ア 競技用具等整備事業

競技運営のための施設・用具の整備を配慮しながら、競技力向上のための施設・用具の整備を段階的・計画的に行います。

### イ トップチーム支援事業

本県において各競技の主軸となる競技力を有する企業等のチームをトップチーム団体に指定し、その主体的な強化活動の支援を行います。

### ウ 公共スポーツ施設の有効活用

ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について理解と協力に努めます。

### エ 選手・指導者の参加条件の整備

競技力向上事業の推進に当たっては、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、可能な限り所属長に理解を求められるよう努めます。



(セーリング競技・稲毛ヨットハーバー)

### (3) スポーツ医・科学の積極的な活用

#### ① 現状と課題

本県は、平成11年3月、県総合スポーツセンターにスポーツ医・科学の拠点である「スポーツ科学センター」を設置しました。また、県体育協会「スポーツ医事・科学研究委員会」と協力し、各種講習会や講演会を開催するなど、ハード、ソフト両面において充実した体制が整備されています。

「ゆめ半島千葉国体」の開催を契機として、スポーツ医・科学に関する理解や科学的なトレーニングの導入を促進するため、スポーツ科学センター機能の積極的な活用とともに県体育協会「スポーツ医事・科学研究委員会」の協力により、選手・指導者を対象とした「ドーピング防止講習会」の実施や、国民体育大会へスポーツドクター・アスレティックトレーナーを派遣するなど、強化現場を直接サポートする体制を充実させています。

中でも、選手の体力測定や栄養状況調査の実施、効果的・効率的な練習やけがの予防のため、スポーツ科学センターにおける選手の体力・能力等に関するデータの集積と、そのデータに基づく練習プログラムの作成などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に効果的なトレーニング方法、けがの予防方策、食生活の在り方などについて指導・助言し、競技力の向上に貢献しています。

今後は、これまでの取り組みを踏襲することに加え、アスレティックトレーナー等のサポートスタッフの育成と確保を進め、多様化する現場のニーズに対応することや、年代別や新測定項目、複数回測定の導入などスポーツ科学センターの機能の充実などにより、競技の特性や競技者の実情に応じた競技力向上支援システムの確立に向けた取り組みを強化していく必要があります。

#### ② 取組の方向性

- ア スポーツ医・科学を活用した競技力向上支援システムの充実
- イ 県体育協会「スポーツ医事・科学研究委員会」との連携の促進
- ウ スポーツ科学センターの機能の充実と連携の促進
- エ ドーピング防止等講習会開催による教育・研修の充実
- オ アスレティックトレーナー等のサポートスタッフの育成と確保

#### ③ 具体的な取組

- ア 基礎能力測定・障害相談・栄養相談の実施

スポーツドクター・アスレティックトレーナーによる「測定データ活用会議」を開催し、指導者等に測定結果をフィードバックするとともに、指導者が効果的なトレーニング方法、けがの予防方策などに活用できるような知識や技術の充実を図ります。また、選手の栄養状況調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方などについてサポートする体制を確立します。

- イ スポーツドクター・アスレティックトレーナー等の派遣

県体育協会「スポーツ医事・科学研究委員会」から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健

健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。

ウ メディカルチェックの実施

国体選手の健康管理のため、メディカルチェック（健康診断票による問診・MRI検査）を実施します。

エ ドーピング防止に関する教育・研修

アンチドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の講習会・啓発活動を推進するとともに、国民体育大会出場選手・監督を対象としたドーピング防止研修会を実施します。



（トレーナーによる障害相談）

#### （４）組織・調査等の充実

##### ① 現状と課題

###### ア 組織の充実

本県では、「推進本部」を競技力向上推進の中核的組織として、本部会議を組織し、各種施策を展開しています。本部長は、県副知事、委員には県議会議員・学識経験者など県内各界から幅広い人材を集め、平成23年度は20名の委員で構成されています。

本部会議には2つの専門部会が置かれ、総務企画部会は、予算、決算、総合計画など、普及育成強化部会は選手の育成・強化、指導者の養成・確保などについて審議が付託されています。

これまで本県のスポーツ推進を支えてきたのは県体育協会、各競技団体、学校体育連盟など多くの関係団体の情熱と着実な取り組みです。「推進本部」では、これらの団体と十分な連携を図りながら事業を展開しています。

一方、各競技団体では、競技の特性や実情に応じ、中長期的な視点のもと、明確な目標の設定、目標達成の具体的な計画、成果の分析・評価など組織的な取り組みを推進する必要があります。加えて円滑な強化活動には会計処理等の事務能力の向上も欠かせません。そこで、強化責任者、事務担当者等が一体となった強

化組織の立ち上げを要請し、国体正式競技の40団体すべてに設置されています。

なお、代表者を国体対策委員に選任し、関係者が一堂に会する国体対策委員会総会を開催するなど、情報の共有や研修の充実、意識の高揚に努めています。

#### イ 調査等の充実

本県の競技力向上に関する施策の総合的・一体的・効果的な推進を図るため、国や他県の強化方策などの研究を進めます。また、各種大会、国体強化練習等の視察、競技団体担当者とのヒアリングなど、優秀選手・指導者の発掘のための調査活動を行うことで、国体選手の選考過程や競技力の現状を把握し、競技団体への的確な指導・助言につなげます。

各種の広報活動を通じて、県民のスポーツへの関心や理解を一層深め、スポーツの喜びや楽しみを県民一人ひとりが味わえるような環境づくりを促進します。

### ② 取組の方向性

ア 競技力向上推進本部会議の充実と関係団体との連携の促進

イ 競技力向上に関する研究・調査の充実

ウ 競技団体強化組織との連携の促進と教育、研修の充実

エ 本県競技力の把握・分析

オ 広報・表彰等の充実

### ③ 具体的な取組

ア 競技力向上推進本部会議の開催

計画的な強化施策を推進するとともに着実に具現化に努めます。また、事業の効果や進捗状況を絶えず把握し、施策に反映させます。

イ 関係団体等との連携促進

県体育協会、学校体育団体等関係団体の運営・指導体制の強化、財政基盤確立に努めます。

ウ 各種会議の開催による研修の充実

国体対策委員会総会、強化・会計・派遣、ジュニアの各担当者会議等を開催し、教育や研修を充実させることで円滑な強化活動の展開に努めます。

エ 国体選手選考・強化活動調査事業

本県競技力の現状把握、他県の強化施策の分析等を通して、優秀選手・コーチの発掘・育成・強化のための調査・研究を進めます。また、各種大会、国体強化練習等の視察や競技別のヒアリング等を通して、国体選手・監督・コーチの競技力を把握・分析し、適正な選考を行います。

カ 広報活動の充実

県、県教育委員会、関係市町村の広報誌等で積極的に選手、指導者、チームを紹介するとともに、各種メディアと協力し、広報活動の充実を図ります。